

横手市の高齢者福祉事業見直しに関する提言書

高齢者福祉事業に関する市民検討委員会

令和3年11月

1 提言について

高齢者福祉事業に関する市民検討委員会は、ビルド&スクラップの手法を用いて、より時代に即した新たな事業を創出するために、幅広い年代の一般市民から意見を聞くことを目的として設置されました。

私たちは、少子高齢化が著しい横手市において、地域の一員として持続可能な地域共生社会の実現を目指すという観点において、今回を含め4回の会議を重ね、既存事業のあり方を見直し、真に必要な福祉事業について検討を行ってきました。

高齢者を支える状況は、現在の「騎馬戦型」（働く世代3～4人が高齢者1人を支える）から、「肩車型」（働く世代1人が高齢者1～2人を支える）の社会への突入が目前に迫っています。担い手がいなければ、これまでと同じ福祉の枠組みは維持できません。「今が良ければいい」ということではなく、近い将来を見据えて、今、真剣に考えなければなりません。

市民検討委員会で出された意見や提案は、今後の具体的な検討をする上で役立つよう、様々な年代や立場における多様な視点から絞り込まれています。

ここに、市民検討委員会としての意見を提言書としてまとめました。

高齢者をはじめとした全ての市民が、安心と希望をもって暮らし続けられるよう、今後も、適切な高齢者福祉施策を推進していただくことを願います。

令和3年11月

高齢者福祉事業に関する市民検討委員会 委員一同

2 高齢者福祉事業に関する市民検討委員会 委員名簿

【委嘱機関：令和3年6月1日から令和4年3月31日まで】

	役職	所属等	氏名
1		横手地域老人クラブ連合会	ヤマダ マツタロウ 山田 松太郎
2		増田地域老人クラブ連合会	ナイトウ イノスケ 内藤 猪之助
3		平鹿地域老人クラブ連合会	サトウ アキオ 佐藤 昭男
4		雄物川地域老人クラブ連合会	カガ ゲンシロウ 利 源四郎
5		大森地域老人クラブ連合会	オオタ ジュイチ 太田 壽一
6		十文字地域老人クラブ連合会	ミサワ チョウコウ 三澤 澄弘
7		山内地域老人クラブ連合会	コバヤシ リョウイチ 小林 良一
8		大雄地域老人クラブ連合会	タキサワ マサヒロ 滝澤 将弘
9	副委員長	横手市連合婦人会	シマダ ヨウコ 嶋田 陽子
10		横手市連合婦人会	ハラ ヨシミ 原 ヨシミ
11		横手市連合婦人会	ツジタ ジュンコ 辻田 純子
12		横手市民生児童委員協議会	サトウ トシアキ 佐藤 俊明
13		横手市民生児童委員協議会	シバタ タカユキ 柴田 孝文
14		横手市民生児童委員協議会	ササキ タカオ 佐々木 隆雄
15		横手地域協議体	ヤツシマ ヒデキ 八嶋 英樹
16		平鹿地域協議体	サトウ セツコ 佐藤 節子

	役職	所属等	氏名
17		大雄地域協議体	安藤 一幸 <small>アンドウ カズユキ</small>
18		横手市社会福祉協議会	佐藤 司 <small>サトウ ツカサ</small>
19		横手市介護保険運営協議会	後藤 薫 <small>ゴトウ カオル</small>
20		横手市介護保険運営協議会	鈴木 るみ子 <small>スズキ ムコ</small>
21		横手市 PTA 連合会	園部 勇人 <small>ソノベ ユウト</small>
22		よこてすくすく子育てネット	長谷川 聖史 <small>ハセガワ サトシ</small>
23		JA 青年部	小原 暢 <small>オハラ トオル</small>
24		一般	佐々木 朋樹 <small>ササキ トモキ</small>
25		一般	高橋 大斗 <small>タカハシ ダイト</small>
26	委員長	秋田大学大学院	中村 順子 <small>ナカムラ ヨリコ</small>
27	オブザーバー	秋田大学医学部保健学科	眞壁 風子 <small>マカベ フウコ</small>
28	オブザーバー	秋田大学医学部保健学科	寒河江 映葉 <small>サガエ テルハ</small>
29	オブザーバー	秋田大学医学部保健学科	村山 穂乃花 <small>ムラヤマ ホノカ</small>
30	オブザーバー	秋田大学医学部保健学科	佐藤 亮太 <small>サトウ リョウタ</small>
31	オブザーバー	秋田大学医学部保健学科	古谷 咲絢 <small>フルヤ サキ</small>
32	オブザーバー	秋田大学医学部保健学科	竹前 美佑 <small>タケマエ ミユ</small>

※所属等は委員の委嘱時点のものを記載しています。

3 提言内容

市民検討委員会では、これからの時代に即した高齢者福祉事業として、次の事業を提案いたします。

① 高齢者見守りシステム事業

【事業内容】

高齢者の孤独死を防ぐため、緊急通報、避難勧告、情報配信、服薬管理、相談機能等を備えた通信システムを構築し、高齢者でも簡単に操作できる画面のタブレット端末等へ導入する（端末の貸与または購入助成も併せて行う）。

【付帯意見(具体的な検討を進める上での留意事項)】

- ・高齢者が使いこなせるようなフォロー体制が必要である。
- ・新しいことに慣れるまでは時間も手間もかかるが、災害対策や高齢者の増加、支え手の減少などを考えあわせると必要性が高い。
- ・事業により見守る側の負担を軽減し、地域の助け合いを増やすよう取り組んでほしい。
- ・目や耳が不自由な方、認知症の方などでも使えるような工夫が必要。

② 高齢者総合サービス券交付事業

【事業内容】

①シルバー人材センターへの業務依頼（草刈り、冬囲い、障子貼替等）
②公共交通（タクシー、バス等）の利用
⇒①②のサービスを受けられる利用券を日常生活や移動手段に困っている高齢者へ交付する。

【付帯意見(具体的な検討を進める上での留意事項)】

- ・フォーマル（介護サービス）、インフォーマル（地域による助け合い）のサービスを受けている高齢者も多いため、全員に配るのは無駄であり、バラマキとなりかねない。券を配るのではなく、利用した分の費用を助成する制度にするべき。

- ・「広く浅く」ではなく、本当に必要な人へ必要な量の支援が届くようにすべき。
- ・デマンド交通整備のほか、相乗りや送迎サービスなどの移動手段支援の拡充も併せて実施する必要がある。

③ 高齢者越冬移住補助金交付事業

【事業内容】

冬期間、住環境（暖房や移動手段など）が整わず、自宅での生活が困難な高齢者が、自宅を離れ賃貸アパートや宿泊施設等で生活する際に、住宅費や自宅管理費等を補助する。

【付帯意見(具体的な検討を進める上での留意事項)】

- ・不在期間中の自宅の管理について手厚い支援がなければ、安心できないだろう。
- ・シェアハウスや大型施設等、見守り体制が整った環境の方が、アパートよりも安心して生活できるのではないか。

④ 高齢ドライバー安全運転サポート補助金交付事業

【事業内容】

高齢ドライバーに対し、安全運転サポート車の購入や踏み間違い急発進抑制装置を自家用車に取り付ける費用を補助する。

※国が実施している同様の補助事業については、令和3年度内に予算上限に達し、終了する見込み。

【付帯意見(具体的な検討を進める上での留意事項)】

- ・高齢ドライバーの家族が抱える不安の解消につながる。
- ・相乗りや送迎サービスなどの移動手段支援の拡充も併せて実施する必要がある。

4 検討経緯

第1回検討委員会(令和3年7月28日開催)

見直し対象である4事業について意見交換を行いました。
4事業の概要と、主な意見は以下の通りです。

敬老会事業

【事業内容】

「地域の世代間交流による敬老意識の醸成」を目的として、75歳以上の方を対象に飲食やアトラクションを提供する敬老会を開催する。

【主な意見】

- ・担い手不足により、今までのやり方では継続できない。
- ・高齢者同士や世代間の交流は必要だが、別の形でも可能である。
- ・自治会や地区交流センターなど、地域ごとに自由度や柔軟性を持たせて任せる方法もある。

長寿祝金支給事業

【事業内容】

高齢者の長寿を祝い、高齢者福祉思想の普及を図ることを目的として、長寿祝金（88歳は1万円、100歳は10万円）を支給する。

【主な意見】

- ・気持ちがこもっていれば金額は関係ない。
- ・長年頑張ってきた高齢者へ祝意や感謝を伝えることは大事である。
- ・88歳が増えているのに祝う必要があるか疑問だが、100歳は祝う価値があると思う。
- ・子どもたちからのメッセージカードなど、若い世代への敬老意識醸成を促す方法で感謝を伝え、財源は子育て支援等に回すべき。

入浴サービス券支給事業

【事業内容】

高齢者の健康増進を目的として、65歳以上の方へ割引料金で入浴できるサービス券を年12枚交付する。

【主な意見】

- ・近くに入浴施設が無い、交通手段がない等の理由で利用できない人にはメリットがない。
- ・受益者が限定的であり不公平。
- ・健康増進効果が不明であり、検証も困難。
- ・外出や交流による心の健康づくりにつながっている。
- ・レジャー的な利用が多く、福祉の財源を使う事業ではない。
- ・多くの方が平等に使えるサービスへ転換すべきである。
- ・まずは移動手段支援に力を入れるべきである。

はり・きゅう・マッサージ施術費助成事業

【事業内容】

高齢者の健康増進を目的として、65歳以上の方へ、1回の施術（医療保険適用外）につき1,000円の助成が受けられる利用券を年12枚交付する。

【主な意見】

- ・受益者が限定的であり不公平。
- ・健康増進や医療費の削減につながっているか不明であり、効果の検証も困難。
- ・対象者の範囲や交付枚数を見直し、福祉が必要な人へのサービスにするべきである（介護予防など）。
- ・子育て支援にお金を回すべきである。

第2回検討委員会(令和3年8月11日開催)

「高齢者の課題とニーズ」と「あったらいいサービス」について、それぞれ意見交換を行いました。主な意見は以下の通りです。

【高齢者の課題とニーズ】

- ・雪対策
- ・交通手段（買い物・通院）
- ・様々な不安を気軽に相談したい
- ・情報アクセスが困難
- ・若者と交流したい
- ・気軽に集える場が欲しい
- ・ちょっとした手伝いをしてほしい
- ・近所付き合いが減り話し相手がない
- ・生きがいが欲しい
- ・生活費が足りない

【あったらいいサービス】

- ・タブレット端末を配付し双方向でやり取りする
- ・「何でも使える券」を交付
- ・タクシー券を交付
- ・冬はアパートやホテルで生活する
- ・自動運転車レンタル
- ・わかりやすい回覧板
- ・雪に関する教育（助け合いなど）
- ・移動販売の充実
- ・町内単位での世代間交流
- ・高齢者による小学生の登下校見守り、技術の伝承
- ・学生ボランティア（部活動での雪寄せなど）
- ・有償ボランティアによる人材バンク
- ・ワンストップ相談窓口
- ・高齢者サービスの電話帳

第3回検討委員会(令和3年9月29日開催)

・第2回検討委員会で話し合った「あったらいいサービス」のアイデアの中には、横手市においてすでに提供されているサービスや、実施の準備に入っているものもあったため、それらを除いた、全く新しい取り組みとなる4事業について、事務局が作成した「たたき台」を元に意見交換を行い、ブラッシュアップしました。

・最終的に、新しい4事業の概要に加え、具体的な検討を進める上での留意事項を付帯し、提言内容としてまとめました。

